

いわき農林事務所ニュース

2005年12月号

活動状況

○林業教室（基礎講座・実践講座）が開催されました！

いわき地方における平成17年度の林業教室は、実践講座の第1回が10月25日に、基礎講座の第2回が11月11日にそれぞれ開催されました。

実践講座は4名の研修生が出席し、野生(やせい)きのこの発生・促進を研修するため、梁川町白根地区の「白根野生(やせい)きのこ研究会」を訪ね、活動内容の説明を受けた後、実際に野生(やせい)きのこが収穫されている現地を見学しました。

「白根野生(やせい)きのこ研究会」では、自然の恵みを増やすため、山林の手入れなどの環境整備や、山の恵みを味わい後世に伝えるため、野生(やせい)きのこの収穫祭・収穫体験などの活動を行(おこな)っています。

参加した研修生は、野生(やせい)きのこを発生・促進させるためには、どのような森林整備が必要かについて意見交換を行い、交流を深めました。

基礎講座は3名の研修生が参加し、いわき市常磐藤原町の「湯の岳山荘」で行われた講義では、県林業普及指導協力員で、林業技士(林業機械・森林評価)、安全管理専門家の平子作磨(さくま)さんらが、林業労働災害を防止するための労働安全衛生教育について説明を行いました。

林業労働災害は、慣れによるものと思われる事故が最も多く、特に伐採時における係り木処理の作業中や、作業車による搬出中の事故が多くなっています。このため、ハインリッヒの法則や、基本動作の再確認、危険予知訓練が効果的であることを学びました。

午後は、生産性の向上と労働強度の軽減や労働安全を確保するため、高性能林業機械による搬出技術を学びました。いわき市遠野(とおの)町の国有林内の作業現場ではチェーンソーでの伐採やフォワーダーでの集・運材、プロセッサでの枝払い・造材作業を見学しました。

研修生は、あっという間に枝払いや造材をするプロセッサの性能や、現場の若手作業員の連携の良さに驚いていました。



説明を受ける研修生



機械による搬出作業を研修

○経営体育成基盤整備事業 白岩地区が竣工

11月9日、いわき市四倉町の白岩地区で進められていた経営体育成基盤整備事業の竣功式と記念碑除幕式が行われました。

「白岩を拓く」と知事が揮毫した記念碑を、茂木県農村整備領域総括参事、いわき市長、千軒平溜池土地改良区理事長、白岩地区ほ場整備組合長らが除幕し、工事の完成を祝いました。

その後、竣功式典において当事務所の小山所長が工事経過について報告し、知事感謝状の交付などが行われました。

今後は、大区画となったほ場を元に、担い手への集積、直播栽培などが期待されます。

事業概要

- 地区名：経営体育成基盤整備事業
白岩地区
- 工期：平成11年度～平成16年度
- 事業内容：区画整理 25.1ha
農道 4,261m
用排水路 8,354m
- 事業費：336,500千円



記念碑除幕のようす

○高(こう)病原性鳥インフルエンザいわき地方連絡会議を開催

11月16日、本格的なインフルエンザ流行期の冬を前に、今年度第3回目の高(こう)病原性鳥インフルエンザいわき地方連絡会議がいわき家畜保健衛生所主催により開催されました。家畜保健衛生所、農林事務所をはじめ、いわき地方振興局、いわき建設事務所、いわき教育事務所、いわき市、いわき市保健所のほか、いわき中央、東、南の各警察署からもそれぞれ担当者が出席しました。

現在、地球規模でH5N1亜型高(こう)病原性鳥インフルエンザが発生し、東南アジア地域では人への感染や死亡例(60数例)が報告されており、ウイルスの突然変異により人から人へ感染する「新型インフルエンザ」の流行が懸念されています。

会議では、はじめに現在、茨城県で大発生しているH5N2亜型鳥インフルエンザ、いわゆる「弱毒タイプ」の発生概要、防疫対策の実施状況及び本県からの家畜防疫員派遣状況等について説明が行われました。

次に、いわき地方で病気が発生した場合の各構成機関の所掌事務、役割分担、防疫対策人数の配置等について検討が行われました。

万一、いわき地方で高(こう)病原性鳥インフルエンザが発生した際には、副知事を本部長とする福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザ対策本部が、また、地方組織として、いわき農林事務所長を本部長とするいわき地方対策本部が設置され、家畜の防疫対策や食の安全・安心の確保、畜産農家への支援などの対策が行われます。

(いわき家畜保健衛生所)



○県農業試験場いわき支場が公開されました

11月17日、18日の2日間(かん)、県農業試験場いわき支場の一般公開が行なわれました。この一般公開は試験研究成果や施設・ほ場などを地域住民の方々に公開し、開発技術や農業への関心を深めていただくことを目的に毎年11月に実施しており、今年で5回目となります。

今年は、地産地消月間のイベントとして、地産地消を応援する技術の展示にも取り組みました。前年度好評であった常緑樹やラン類のパネル展示の内容をさらに充実させ、花や緑を身近に感じていただくように工夫しました。また、いわき支場には、数多くの樹木類が植栽されていますが、その中でも挿し木で増やしたサザンカを記念樹として来場者にプレゼントしました。

当日は、場内で生産された色とりどりのシクラメンやストックなどの花き類や、ネギや白菜、キャベツ、ブロッコリーなどの新鮮な野菜が格安で販売され、買い求める人で大変賑わいました。

来場者の中には、ハウスネギの栽培方法を熱心に尋ねる人や、実付枝物花木の展示に歓声をあげる人など、思い思いに参観している姿も見られました。

いわき支場は来年4月に新たな県農業総合研究センター（仮称）に統合されることが決まっています。
（農業試験場いわき支場）



購入した花きを手に場内を見学する来場者

○いわき地方ちびっこ「おいしいごはん」講座が開催されました

11月26日、いわき地方ちびっこ「おいしいごはん」講座がいわき市文化センターで開催され、42組の応募のうち抽選で選ばれた20組40人の親子が参加しました。

はじめにごはん料理教室が行われ、管理栄養士の松村貞美先生の指導のもと、いわき市三和(みわ)町のエコファーマー米(まい)や市内産の野菜など地元の食材をふんだんに使って、「バエリア」や「スペアリブのいり米(ごめ)蒸し」、「豚とエリンギのソテー」、「きりたんぼ汁」の4品の料理に挑戦しました。

午後は、保護者を対象とした松村先生の「ごはん与健康講座」が行われ、ごはんを中心としたバランスのとれた日本型食生活のすばらしさについて学びました。

また、子供たちは、2005つくしまライシーホワイトの武田久美子さんが出題するごはんクイズや、今年、いわき市農業生産振興協議会が作成した食育カルタ「いわき元気もりもりカルタ」を使い、「ごはん」について遊びながら楽しく勉強しました。

子供たちは、お父さん、お母さんと一緒に、「ごはん与健康」や「いわきの安全安心な農産物と地産地消」などについて理解を深めていました。



ライシーホワイトのお姉さんも手伝ってくれました



カルタで楽しく勉強する子供たち

トピックス

- 「おかげさまで多彩な生業（なりわい）をしております！」
～全国認定農業者ふくしまサミットの現地研修会が開催される

10月27、28日の2日間(かん)、全国認定農業者ふくしまサミットが郡山市をメイン会場に開催され、全国から約2500名の認定農業者と関係者が参加しました。現地研修会は県内8コースに分かれ、いわき地域コースには、交流会に約300名、現地研修に約250名が参加しました。

いわき地域コースは「おかげさまで多彩な生業（なりわい）をしております！」をテーマに行われました。

交流会は、いわき湯本温泉のスパリゾートハワイアンズで行われ、浜通りの多彩な農林水産物を使った料理を味わいながら交流を深めました。

2日目(ふつかめ)の現地研修では、いわき市四倉町の有限会社とまとランドいわきと三和(みわ)町永井地区のそば栽培・農家そば屋を見学しました。

とまとランドいわきは平坦部の冬期の日照を活かしたトマトの大規模ロックウール栽培を行っており、環境に配慮したクリーンエネルギーであるLPガスを利用した暖房や暖房コストの削減のため設置された蓄熱設備、ラノーテープ（非散布型農薬）や粘着テープによる減農薬栽培を視察しました。

また「いわき高原そば処 農家そば屋」では、この地区で取り組んでいる地区営農改善組合や水稻生産組合、そば部会等による地域営農システムやそばオーナー制などについて紹介したスライドを見ながら、打ち立ての新そばを食べていただき好評でした。

広いいわき市の端から端まで少々きついスケジュールでしたが、認定農業者の皆さんは疲れも見せず、活発に意見交換をし、交流を深めていました。



とまとランドいわきを見学する参加者

○渡部小の「田んぼの学校」その8

10月28日、いわき市渡辺町で今年8回目の環境教育事業「田んぼの学校」が開催され、渡辺小学校5年生21名が「脱穀」を行いました。

脱穀に向けて、稲をハセ掛けして準備していましたが、雨により2度、延期となりました。この日ようやく実施することができました。

最初に、「扱き箸(こきはし) (こきはし)」「千歯扱(せんばこき (せんばこき))」「足踏み脱穀機」など昔ながらの農機具を使った脱穀に挑戦しました。「扱き箸」は一端がヒモで括ってある割竹の、竹の間に稲穂を挟んで手で引き、粉を落とす道具、「千歯扱」は20本程度の鉄の刃が並んでいて、鉄の刃の部分で稲穂をしごき粉を落とす道具、「足踏み脱穀機」は突起物の付いた円筒形の扱胴を足踏みで回転させ、稲穂を当てて粉を落とす道具のことです。児童たちはすぐに使い方を覚え一生懸命作業していました。児童からは「なかなか進まないなあ」とか「手で挟んで引っ張っても取れるよ!」などの声が聞かれました。

残りの稲は、農家で現在も使われているハーベスタを使って作業しました。ハーベスタの作業では、機械へ投入するため、児童たちがハセから下ろした稲を持って並んで作業を行いました。見る見るうちに終わってしまい、児童たちは昔と今の作業の違いを実感していました。

また中には、皆が作業している脇で、保護者と一緒にポップコーンを作るように米をあぶって食べている児童もいました。やはり、農作業にも楽しみが必要ですね。

今回は、いよいよ待ちに待った収穫祭。収穫したもち米で餅つきし、全校児童でいただきます。



「千歯扱き」を体験する児童たち



ハーベスタも体験しました

○「松くい虫防除現地講習会」が開催されました

いわき市における松くい虫の被害は、昭和51年に発生が確認されて以来年々増加し、昭和61年をピークに減少しているものの、被害材積は約10,000立方メートルと高い水準にあり、今後も被害拡大防止などの対策を進めていく必要があります。

そこで、11月7日、松くい虫防除技術の向上の一環として、いわき市久之浜(ひさのはま)町において、いわき市主催による「被害木の伐倒及び薬剤くん蒸処理の講習会」が開催されました。講習会には、実際にくん蒸処理作業を行う森林組合や業者、関係者など約40人が参加しました。

はじめに、市の担当者から松くい虫被害の発生状況や防除実績、松くい虫伐倒駆除の概要について説明があった後、現地のマツを実際に伐倒し、くん蒸処理の実習を行いました。実習では薬剤メーカーの担当者から、くん蒸処理に使用する薬剤の安全性や効果的な使用方法などについて説明がありました。また、当事務所の職員が伐

倒駆除の際のポイント等について指導しました。

参加者は、実習を通して安全で確実にくん蒸処理の方法を再確認していました。



講習会のようす
(写真後の枯損木を実際に処理した)

○いわきの木を使った「木の家づくりツアー」（第2回）が開催

11月12日、いわきの気候風土で育った地元の材での家づくりを勉強する「木の家づくりツアー」が磐城流域林業活性化センターの主催により開催されました。市内で住宅建築を予定している29歳から65歳の19名が参加し、いわき建築設計事務所協会の6名のアドバイザーとともに、貸し切りバスで4箇所を視察・研修しながら、意見交換を行いました。

前回は9月10日に「WORK」をテーマに、森林作業と木工を体験しましたが、今回は「STUDY」をテーマに、木材市場で木の見方や木の値段について学びました。さらに、「いわきの木」で建築中の3カ所の住宅を見学し、木の家の骨組みについても学びました。

木材市場では「欲しい材料をどのようにしたら買えるのか」などと質問する参加者もあり、こだわりの深さが感じられました。

来年1月には今回の参加者を対象に、「いわきの木で家をつくるのが、いわきの森と人を元気にします」をテーマに、建築士による無料「相談会」を開催する予定となっています。



「いわきの木」で建築中の住宅を見学する参加者

○芝山牧野(ぼくや)、萩牧野(ぼくや)が開牧されました

11月15日にいわき市宮荻牧野(ぼくや)が、11月22日に同芝山牧野(ぼくや)が閉牧となり、それぞれ閉牧式が開催されました。

両日とも好天に恵まれ、飼育者をはじめ、県やいわき市、関係者が見守るなか、約半年の放牧期間を過ごした牛たちは健康検査を済ませ、飼い主に引かれてトラックに乗り込み、放牧場を後にしていました。

今年一日当たりの最大放牧頭数は芝山牧野(ぼくや)83頭、荻牧野(ぼくや)61頭と大盛況となりました。放牧期間中は、放牧家畜の健康管理のため3週間に一度、放牧牛検査とダニ駆除が行われました。

広い草原で豊富な牧草を腹一杯食べ、すくすくと足腰の強い体に成長した牛たちは、冬期間は里に下り、牧草が青々と繁る来年の5月頃には再び牧野(ぼくや)へと戻ってきます。

(いわき家畜保健衛生所)



閉牧を迎えた荻牧野と牛たち

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]